

## 前田会頭が神戸電鉄(株)に、粟生線の存続を要望



さる1月17日、当所の前田会頭、伊藤副会頭、河合専務理事の3名が神戸電鉄(株)鉄道事業本部を訪れ、三津澤常務取締役が粟生線存続要望書を手渡した。

今回の要望活動は、昨年末に報道されたとおり、粟生線存続戦略会議の協議の結果、兵庫県主導による存続支援策が打ち出され、神戸電鉄においても早期に成案を得るよう尽力されるとの発表を受けて、商工会議所として本案をもとに神戸電鉄が存続に向けた具体策を速やかに講じられるよう要望を行ったものである。

粟生線は、三木市発展の礎であるとともに、8万市民の生活を支える重要な交通手段として、神戸市をはじめ阪神間及び小野市等への通勤、通学には大きな役割を果たしており、いわば三木市民の生命線となっていること。また、鉄軌道は、地域経済の活性化や広くまちづくりには欠かせない社会基盤の根幹をなすものであり、今後さらなる高齢化社会を迎え、環境に優しい安全安心社会の実現はもとより、地域を超えた多機能連携など、広域的な都市間ネットワークを築くためにも、その維持存続は必要不可欠であることなどを訴え、まさにまちの存亡を左右する粟生線の存続を強く要望した。

三津澤常務取締役からは「兵庫県と協議中であり、現時点で詳しい協議内容についてはコメントできないが、社の現況は大変厳しいことはご存知の通り。地元から様々なイベント等を通じてご支援を頂いているが、将来にわたり路線を維持していくためには、通勤・通学を含めた日常生活での利用増加が不可欠であり、地元業界の皆さんにも、従業員の電車通勤の促進はもとより、車内広告の提出や企業の福利厚生として企画乗車券のご利用などでも、さらなるご支援を頂きたい。」などと説明があった。